

令和5年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>考察○「1 一人一人の児童生徒の尊重」「2 道徳・心の教育の充実」の項目ともに「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答の割合がおおよそ9割に達する結果となった。ただ、「一人一人の児童・生徒の尊重」に関する項目では、昨年度同様、保護者の肯定的な回答の割合がやや低い傾向である。したがって、児童の思いや考えをよく聞き、それぞれの個性や考え方を大切にすることを意識した指導を全職員で行っていく必要があると考えられる。「2 道徳・心の教育の充実」の項目に関しては、本年度は重点項目を意識したローテーション道徳、公開授業を行った。教職員の意識もあがってきているので、今後子どもたちが「学校は楽しい」と感じられるよう、保護者との協力体制を図りながら教育の充実に取り組んでいきたい。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>考察○「授業力向上」の項目では、教職員と保護者の評価は約9割が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」であった。しかし、児童に関しては5%ほど下回った結果となった。授業において児童の「なぜだろう」をひろいあげ、児童が「わかった」「できた」と実感することができる授業づくりをしていきたい。○「タブレット端末活用」の項目では、80%以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を示す結果となった。今後、使用ではなく「活用」がさらに進むよう教職員同士の教え合いや研修の案内、校内研修での学びを深めていく。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>考察○「5 学校の支援体制」の項目については、教職員の「そう思う」の回答より保護者の回答の割合が低く、差が見られる。「どちらかといえばそう思う」を含めても、保護者は昨年度より若干下がっており、「わからない」という回答も増加しているため、より分かりやすい保護者への啓発が必要だと考える。教職員の意識は高まっているので、校内支援委員会を核にして情報共有をし、チームで対応する必要がある。</p> <p>○「6 共生社会を担う人材の育成」の項目については、「そう思う、どちらかといえばそう思う」の児童の回答の割合がおおよそ9割である一方で、保護者の回答の割合は8割弱と低かった。また、保護者の2割弱が「わからない」という回答だった。正しい理解と認識を深めていくために「交流及び共同学習」をさらに積極的に進め、啓発を図っていく必要がある。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察○「7 安全と事故防止」の項目については、昨年度に比べて、児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答の割合が高くなっており、児童の中での意識は高まっていると考えられる。しかし、教職員の「そう思わない」の回答の割合や、保護者の「わからない」の回答の割合が増えている。学校生活の安全に関するルールや取り組みの共通理解や保護者への発信等を行うことで、安全教育への意識をさらに高めていくことができると考える。○「8 家庭や地域との連携」の項目については、コロナの5類移行に伴い、コロナ前の教育活動が戻ってきたため、昨年度より家庭や地域と連携できる機会が増えてきた。今後も積極的に学校から情報発信を行いながら、家庭や地域との連携を図っていきたい。</p>	

⑤ 本校の教育	
9 学校独自1	10 学校独自2
子どもは、自分自身と他の人を大切にしていますか。	子どもは、話をよく聞き、自分の思いや考えを發表することができていると思いますか。
<p>考察○「学校独自1」の項目については、肯定的な意見の割合が、保護者と児童は9割を超えているのに対して、教職員の割合は8割にとどまっている。学校で起こるトラブルに関しては、担任一人で抱え込まず、学年や生徒指導部と連携を図りながら、職員全員で児童に関わっていくことが大切だと考える。また授業でもお互いのよさや助け合うことについて、学級活動や道徳を中心に、引き続き大切に取り扱っていく必要がある。○「学校独自2」の項目については、保護者、児童が8割弱程度、教職員は6割程度が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とかなり低い結果となった。児童が教職員や友達の話や話を聞くということができていないと感じていることから、日々の授業中の「教職員の話」や「友達の発表」などをしっかりと「きく」という指導を徹底して行い、そこから対話的で、深い学びへとつなげていきたい。</p>	

⑤ 本校の教育	
11 学校独自3	
子どもは、体力向上に努めていると思いますか。	
<p>考察「学校独自3」の項目については、昨年度に比べて、児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答の割合が増加し、8割を超えた。教職員の「そう思う」も2割増加していた。今年度は、コロナ禍による様々な制限もなくなり、のびのびと外で遊ぶことができたからだと考えられる。今後も、教科体育等の取り組みを充実して、児童の体力向上に取り組んでいきたい。</p>	

来年度の具体的な取組について

- 児童の豊かな心を育成するために「道徳の授業」と体験活動を関連づけて取り組み、人権教育を推進していく。また、ローテーション道徳を継続して行い、教師の持ち味を生かしていく。さらに「kiminomicataアンケート」や「心のアンケート」も工夫しながら実施し、児童の一人一人の実態把握と一人一人に応じた指導に努めていきたい。
- 三和校区の共通実践である「きくことあいうえお」をもとに、子どもたちの「きく」ことに対する指導を徹底させたい。また「ハッピータイム」の時間を活用して、児童が「きく」のスキルと共に「対話」のスキルも身につけることで、より深い学びへとつなげることができるように取り組んでいきたい。
- 児童が「わかる」「できる」を実感することができるように、「めあて」「対話」「振り返り」の視点で授業実践の共有や振り返りを行って、教職員の授業力向上を目指したい。また、児童が学びを実感して次の学習の意欲へとつなげるために、授業中の振り返りの時間の確保や学校全体での振り返りシートの活用などに力を入れて取り組みたい。
- 来年度は、新タブレットへの移行作業も視野に入れ、Googleアカウントでのアプリ使用を進めていく。同時に情報モラル、使い方のルールも改めて徹底していきたい。
- 個別に配慮が必要な児童について、特別支援教育コーディネーターを中心に、家庭や他機関との連携を深めながら、児童の実態と教育的ニーズを把握し、校内支援体制の充実を図っていく。
- 「交流及び共同学習」をより積極的に推進するとともに、特別支援教育について啓発を図りながら、正しい理解と認識を深め、共生社会の実現を目指していく。
- 安全と事故防止については、毎月の安全点検を綿密に行い、安全に関わるルールの理解と発信を委員会活動等を活用しながら児童と教職員一緒に行っていく。また、保護者にも学校での取り組みを知らせたり、児童への声かけを依頼したりして、学校と家庭間の連携を強化していきたい。
- 行事や教育活動内容を精選しながら、関係機関や地域の人材を積極的に活用し、家庭や地域に情報を発信し、社会に開かれた教育課程にしていく。
- 昨年度に引き続き、今年度も本校は体力向上優秀賞を受賞することができた。更なる体力向上のため、教科体育を中心に体育委員会の「スポーツ教室」や外遊びの奨励を継続・発展させるとともに、児童が自発的に運動できる環境づくりに取り組んでいきたい。

学校関係者評価

- コロナが5類感染症へ移行し、学校は元の生活に戻れるように積極的に活動しているように感じました。
- 子どもがSOSを出せる先生、SOSに気づき動ける先生であってほしいと思います。
- PTA行事を工夫しているんな事をしているそうですね。そちらの情報もぜひ教えてください。
- 思っていた以上に子どもたちが落ち着き、休み時間の笑顔も多く見られたので安心しました。先生方の日々の努力に感謝します。